

人権ほつと三年六月号

「子どもたち一人一人の最適な学びに向けて」

大阪教育大学 講師

今枝 史雄

令和二年度から小学校、中学校などに在籍する全ての児童生徒に一人一台、タブレット端末（i P a d など）やノート P C が配布され、令和三年度から順次、授業で活用されることになりました。これは G I G A スクール構想と呼ばれるもので、新しい教育時代の到来と言われています。

文部科学省が G I G A 発行するリーフレット「G I G A スクール構想の実現」によると G I G A スクール構想とは「一人一台端末と、大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子ども含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T 環境を実現する」これまでの我が国の教育実践と最先端の I C T のベストミックスを図ることにより、教師・児

童生徒の力を最大限に引き出す」こととされています。G

I G A スクールでは、タブレット端末などを使った授業を行うことが大事なわけではありません。「教科書の文字をもつと大きい文字で見たい」「板書をノートに写すのに時間がかかるため、写真で保存して後で見返したい」など、「子どもたちは一人一人多様な学び方がある」ことを前提として、タブレット端末などを使って「個別最適化する」子どもたち一人一人の最適な学習環境を作る」ことが重要とされています。最適な学習環境を作るという目的の下、タブレット端末などの活用はその手段の一つとなっています。

東京学芸大学名誉教授、学習障がい専門家である上野一彦先生は「私たちの教え方で学べない子にはその子の学び方で教えよう」と提言されています。上野先生の提言が、現在の G I G A スクール構想で実現しようとしています。子どもたち一人一人の最適な学習環境つくりのため、正しくタブレット端末などが活用されていくことが望まれます。